

緑のカーテン

「緑のカーテン」とは、ツルが巻き付いて伸びる種類の植物で作る、自然のカーテンの事をいいます。

このカーテンで窓際が覆われると、部屋の中には薄緑の美しい木漏れ日が射し、葉の間を吹き抜けて入ってくる風は涼しくなるため、非常に快適に過ごせるようになります。また、野菜などをカーテンにして、それが実を結べば、新鮮な野菜を収穫し、食べることもできるのです。

おすすめの緑のカーテン

ツルが伸びる植物であれば、緑のカーテンとして使えます。その中でも、一年草の朝顔、ヘチマ、キュウリ、ゴーヤなどがよく使われています。

ヘチマ・キュウリ

ヘチマやキュウリは葉が大きく枚数もあるため、葉が重なりあつて、本数が少なくても密度の濃いカーテンが簡単にでき上がります。また、キュウリはほとんど実を結ぶため、毎日新鮮なキュウリが食べられます。



■ゴーヤで作った緑のカーテン

ゴーヤ

ゴーヤは夏バテ防止食材として知られ、ビタミンCなどの疲労回復ビタミンが豊富です。ちよつと苦味のある野菜ですが、いろんなメニューに活用できます。

朝顔

朝顔は開花時期もいろいろで、色も豊富です。毎朝美しい花が咲くのを見るのも楽しみになります。また、他のツル性の植物が5〜6月くらいに苗になるところ、7月以降に種を植えても間に合う品種が多いため、すぐに取り掛からない方にもおすすめです。

暑い夏を涼しく過ごす方法

—「緑のカーテン」や「打ち水」で節電しながら、楽しく涼しく夏を乗り切ろう！

打ち水

打ち水とは、家の庭や道路に水をまき、水が蒸発しようとするときに、熱せられた地面から熱をうばってくられる仕組みを利用したものです。昔はクーラーなどの冷房機器がなかったため、こういった方法で涼を取っていました。

ここ数年は地球温暖化という問題もあつたため、現在、各地でこの懐かしい「打ち水」が注目を集めています。昨年は山形市の中心部で「大打ち水YAMAGATA 2010」という取り組みが行われました。市中心部において、15時から一斉に打ち水を行うというものです。みなさんもぜひこの夏は打ち水を行い、涼しく風流に乗り切りましょう。

打ち水時の注意

安全のために車通りの多い場所へは水をまかないようにしましょう。特にカーブの途中や交差点、マ



■大打ち水 YAMAGATA2010 (出典：ポスター)

ンホールの上は自転車、バイクにとつては滑りやすくなるため大変危険です。また、水をまいた場所へバイクや自転車で進入するときは、滑りやすくなっているので十分ご注意ください。

シャワーの残り水、台所のすすぎの残り水などの水を道路にまく事は、交通事故を誘発する危険性があります。こうした水はなるべく使用しないようにしましょう。

また、気温の高い時間帯などに打ち水をする時、湿度が上がりが、かえって不快に感じる場合もあります。打ち水をする時は、気温の下がる15時以降にするなど、工夫して取り組むようにしましょう。(打ち水大作戦ホームページより抜粋)